

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1272300144		
法人名	有限会社長寿松		
事業所名	グループホームあんしん勝浦		
所在地	千葉県勝浦市上植野925-1		
自己評価作成日	令和3年2月25日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPO共生		
所在地	習志野市東習志野3-11-15		
訪問調査日	令和3年3月9日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭的な環境の中で【自立した日常生活に温もりある暮らし】を提供させていただき、職員の笑顔と優しい会話に努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は、田園と山林に囲まれた自然豊かな環境の中に立地し、海も近く利用者が訪れる機会も多くある。事業所の理念である「人間として尊重し、笑顔とぬくもりのある穏やかな毎日を送れるよう」職員が協力して支援している。この時期は本来なら様々なイベントが企画され、あちらこちらに出掛けることも多いのだが、今年度は自粛し、近辺への外出で我慢を続けている。管理者、職員、利用者も含めて、みんなで色々な工夫をしながらこの時期を何とか乗り越えようという気持ちが良く伝わってくる。コロナが早く終息してくれることを願うばかりである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホームの運営理念を玄関に掲示し、職員全員が理念の実践に向け、取り組んでいる。	法人の基本理念を理解し、より実践しやすくするために、職員と一緒に作成した事業所の理念を持っている。出勤時には掲示したこの理念を各人が読んで勤務についている。また、事業所理念の「人間として尊重し、笑顔とぬくもりのある穏やかな毎日を送れるよう」職員は案を出し合い実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ホームの近隣の商店・ガソリンスタンド・郵便局等を積極的に利用している。そのほか、自治体の加入や祭典の参加も行い、地域の交流に努めている。	コロナ禍で地域イベントは中止となっているが、自治会の区長さんが月に2回広報誌を持って来た際に、ホームで困っていることは無いかと聞いてくれる。近所の散歩では住民が「お茶飲んで行きな、お芋たべな」と誘ってくれたり、ホームの前を通る時も声をかけてくれたりもする。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	現在まで実施は出来ていないが、地域の交流を深め、認知症の人の理解や支援の方法を発信していきたい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議により、勝浦市役所の高齢者支援課、民生委員とともに、入居者の状況やサービスの実際等について話し合いを行っている。今後、自治会長や家族等の参加を呼びかけ、サービスの向上に活かしていく。	コロナ禍のため運営推進会議は控えましょうと役所から電話連絡があり、現在は開催していない。ただ、役所に出向いた時にはホームの状況を報告している。今後は外部メンバーの参加が無くとも、内部職員だけの運営推進会議を開催しようと進めている。	実施した場合は今までの外部参加者である、行政、地域包括支援センター、民生委員及び家族への議事録の配布が望まれる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	市の担当者とは、業務の相談等で連絡を取っている。現在、緊急時の受け入れは行っていないが、認知症の相談窓口の業務は行っている。	高齢者支援課には変更や届けのために訪問する。出向いた時にはホームの状況を伝えるようにしている。特にコロナの予防ではワクチンに関する説明や、マスク・手洗い・消毒以外の対策での相談をしている。また、利用者に熱が出た場合の対応や、他の利用者との取扱い方などでの指示を仰いでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	どんな行為が身体拘束に当たるかを、参考資料「身体拘束廃上に関する指針」を用いて、職員の会議で話し合っている。一人ひとりの理解を深め、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	内部研修は12月、1月に実施し、外部研修は10月に受講した。内部研修では、どこまでが拘束にあたるのかを皆で話し合い実践につなげた。トイレや入浴の誘導などで起こりがちなスピーチロックについては「職員優先で無く、利用者優先を心がけるよう」、日常的に促している。	「身体拘束適正化委員会」のやり方については検討し、実施することが望まれる。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束同様、虐待についても職員の会議で話し合い、職員の言動について、虐待に当たらないか注意を払い、防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在まで、権利擁護について学ぶ機会はなかった、参考資料を用い、職員の会議で話し合い、活用できるようにする。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、解約又は改定の時には、利用者や家族に十分な説明を行い、理解と納得を得ている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族等の意見や要望については、外部の相談として勝浦市役所高齢者支援課、内部には苦情・相談窓口を設置している。意見・要望については、運営に反映させるよう努めている。	家族に対しては、電話で近況報告しながら要望などを聞き、ホームを訪れた時も同様に聞いており、それらの意見を運営に反映させている。手紙と利用者の写真を毎月郵送して、ホームでの生活の状況をお知らせしている。アンケートでは回答者全員から「家族の困りごとなどの話をよく聞いてくれる」と高く評価されている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営に関する職員の意見や提案は、ミーティングで話し合い、管理者を通して代表者等に通知している。	問題や課題が出れば、都合のつく職員が集まって解決のための会議をしている。多いときには毎週集まることもあり、職員からは積極的に意見が出されている。行事企画では皆で話し合いながら案を出して進めている。個別には昼休みの時間などを利用して職員面談をし、仕事に関する相談を受けたりしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の希望の時間帯に働けるような取り組みや、職場環境の整備などを行い、なるべく長く働いてもらえるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修を受ける機会を確保し、職員の質の向上を目指し、研修に参加できる環境を整えるよう努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	事業所のの運絡協議会に参加し、情報・意見交換などを行っている。他の施設の優れた点を取り入れて、質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人が訴えていること、困っていること、要望等に耳を傾け、訴えていなくても望んでいることを把握し、安心できるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の不安や要望を把握して、支援出来る様心掛け、信頼関係が築けるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族が望んでいる支援を見極め、他のサービスも視野に入れた対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事全般やその他について、利用者の知識や経験を教わりながら、支えあう関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との関係は、ほぼ築けている。職員、家族共に本人を支えていく関係が築けるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者の馴染みの人との面会など、関係が途切れないようにしている。	「友人に会いたい」というので車同士で会えるように計らった。また、住んでいた家の近くや海を見に、「動物と触れ合いたい」と言うので“千葉県酪農の里”にドライブに連れて行った。コロナ禍で外食や買い物など、人と接触するような場所は困難であるが、安全を保ちながらできるだけの支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士で話をしたり、歌を歌ったりして関わりを持ち、職員がそれを支えるような支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用契約終了後も、本人や家族に気軽に相談してもらえるように努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族の意見等を参考にし、本人の希望や意向の把握に努めている。	初期の段階では家族面談にて収集した情報をベースに介護計画を作成する。その後3カ月間、ケアを行う職員や可能であれば本人からモニタリングを行い、1～2ヶ月で完成する。家族の話と本人の話にギャップのある場合もあるが、その時は出来るだけ本人の思いや意向を優先させた介護計画にしている。3カ月目で見直しが入るが、この段階ではほぼ完成しており、家族も納得されたものになっている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	フェイスシートやアセスメント表に、入居前の暮らし、趣味、生い立ちを記入し、把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの一日の過ごし方や心身状態は、介護記録に記入し、現状の把握を行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の要望や希望、職員の意見などを、ケアマネ同席でカンファレンスを実施し、計画を立てている。	基本的にケアマネジャーが中心となるが、ケアマネはグループ内複数の事業所を兼務している為、週1回の事業所内でのモニタリングだけではなかなか難しく、どうしても本人と暮らした時間の長い家族の要望は聞いて行くことになるが、必要に応じ提携医師、訪問看護師も含め、担当者が集まるカンファレンス会議を行い、ケアプランの見直しを議論している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践を各自のケース記録に記入し、それを参考に介護計画に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	通院の支援、家族との外食、お墓参り等の支援を行い、柔軟な支援やサービスに取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の把握に努め、安全で豊かな暮らしが出来るよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医と良い関係を保ちながら支援している。急変時にも対応してくれている。	月に1回は提携医療院まで通院介助を行っており、職員が診察に立ち会うことで情報収集し、事業所内での記録及びご家族への報告を行っている。訪問看護師は週1回のペースで来所し、入居者のバイタルチェックを始め、健康チェックを行っている。家族の要望で他科にかかる場合は、病院で立ち会って頂く等の対応を行って頂くこともある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	非常勤の看護師が週一回のペースで健康管理を行っている。緊急時は看護師に連絡し、指示・対応を仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院関係者との情報交換、相談に努め、良い関係づくりを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですべてを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	その人らしい最後を迎えられるよう、家族、かかりつけ医、看護師、職員で連携を取り、事業所で出来ることを共有し、支援している。	これまで事業所としても終末期の利用者介護については経験も浅く、対応も困難であったが、ようやくその対応も出来るようになってきた。医療行為が必要な場合は提携医や看護師との連携により対応しており、今年度一人の利用者が終末期ケアに入り11月に亡くなった。コロナウィルス感染予防の為に入院が出来なかったことが理由でもある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	「事故・緊急時対応マニュアル」に沿って、対応を行っている。また、事故が発生してしまつた場合の、事故等再発防止の対策も行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時、非常災害対策計画」によって計画された、火災や地震、風水害時の対応を行う。災害時の避難訓練は定期的に行っている。地域との協力体制は築けている。	一昨年2度にわたって台風の直撃で大規模な停電を経験した事からその後の避難訓練にも力が入っている。非常食や非常用の備品も順次揃いつつあり万全の準備を行っている。今年度はコロナ禍で思うような形では出来なかった部分があるが、徐々に足りないところは補っていく予定である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者と職員という関係より、家族の一員であるという意識で支援しているが、一人ひとりの人格を尊重した対応を行っている。	プライバシーの確保は高齢者施設では利用者の尊厳や人権を守るための最低限の行為であり、この事を日頃から職員の皆さんに徹底を行うように努めている。特に居室に入る時のドアノックやトイレ、浴室などを利用する時など、基本的なところから徹底を行い、尊厳や人格の尊重についても職員会議等で話を行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	認知症の度合いによつて異なる場合もあるが、本人の意思や希望を表せるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日程のようなものがあるが、一人一人のペース、希望にそえるように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に理容師に来てもらい、理髪を行う。衣類は、季節のものを家族が持ってきてくれている。本人の希望で、衣類や室内履きの靴を職員と買いに行くこともある。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	手伝いのでき利用者は、積極的に参加してもらい、一緒に食事作りや片付けを行っている。	食材は外注業者から調達し、調理は事業所内にて職員が行っている。準備や後片付けのお手伝いは利用者の方にも可能な方にはお願いをしており、楽しんで頂けるよう心掛けています。この時期外食もままならない状況で、出来るだけストレスを溜めない事を考慮しメニューも3日に1回位は利用者から希望を聞いて決定する等配慮している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取量を、個人記録に記入し把握している。一人ひとりの状態や習慣に応じた支援を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、戸掛けで歯磨きを行い、できない人は一部介助。月一回の訪問歯科の受診で、日腔ケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄のパターンを把握して定期的に誘導を行い、オムツを使用する利用者はいない。尿取りパッドの使用枚数も減っている。	昨年度まで徐々に高まり傾向にあった排泄の自立度が、今年度は少々低下している様である。ケア方針は基本的に変わらず、排泄記録から、声掛けによるトイレ誘導で出来るだけトイレで排泄をして頂くようにしている。利用者の中にはトイレ用紙の使い方も分からなくなる方もあったりするが、基本方針の元にレベルに合わせたケアを心掛けている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事の内容や、食物繊維、乳製品、水分摂取量に気を付けている。毎日ラジオ体操を実施し、歩行や屈伸運動を一部に実施している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴時間、シャワー浴、清拭など、本人の希望を取り入れ、拒否する人には声掛けのタイミングや、声掛けする人を変えるなどを行い、入浴してもらえよう努めている。	週2回の入浴を勧めており、現在のところ特に問題無く介助も行われスムーズに回っている。現状6名の方は入浴介助が必要であり、お一人は2人介助が必要な方もある。みなさんお風呂好きで、入浴拒否される方も無く、女性の職員が多いので同姓介助にこだわる方も無いようである。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室のエアコンによって室内の温度設定を行い、安心して眠れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	認知症の度合いによって、使用している薬について理解できる人と、できない人がいる。飲み忘れがないよう、服薬の支援や症状の変化の確認に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎日行っているラジオ体操や誕生会、毎月の行事(クリスマス、豆まき等)を実施している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望に応じ、散歩やドライブ、季節ごとの催しに参加できるように支援している。家族参加の外出も行っている。	新型コロナウイルス感染予防の為、遠出の外出支援を自粛している為、事業所から車で3~4分のところにあるミレーニア勝浦というリゾート分譲地の公園にお連れしてお散歩などを行って頂いている。海も見える場所の為、ストレス解消には大いに役立っているものと思われる。事業所内では廊下歩行での足腰鍛錬や、リビングのテーブルを利用して卓球を行ったりし、思い思いの事をやって頂いている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分で金銭を管理するのが難しい人が多いので、家族の協力により、ホームで金銭管理は行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者9名全員が、年賀状作成を実施。電話を掛ける支援もしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間に、季節の飾り物(ひな人形等)を置き、居心地よく過ごせるような工夫に努めている。	リビングには桜の花やひな人形、誕生会の写真等を飾ったり、玄関には金柑の鉢植えを置いたりして利用者に季節を感じて頂く為の工夫をしている。特にこの時期、感染予防にも十分気を遣い、清掃、消毒を徹底。日中、リビングで過ごす利用者の皆さんも、密な状態にならない様、スタッフは十分に注意をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間では席の配置を考え、気の合った利用者同士が思い思いに過ごせるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みのものを目出に持ち込み、利用者が安心して過ごせるように配慮している。共用空間や居室にあるエアコンで空調管理し、居心地よく過ごせるよう努めている。	プライベートな空間である為、安心してくつろいで頂ける様配慮日頃から配慮している。全室畳部屋で、ベットが必要な方は3名程持ち込まれている。その他の方は布団の上げ下ろし等自分でやって頂いており、馴染みの物を持ち込まれている方も多く、小さな仏壇をお持ちの方や、ゴルフバッグや釣り竿、麻雀牌と様々であり、自分の部屋であるという主張をされているように感じる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりが本人らしく、自信を持つて生活ができるように見守り、自立した生活が送れるよう支援している。		